

「明日の京都」山城地域振興計画(中間案)に対する府民の皆様からの御意見の募集結果

項目	御意見・提案の要旨	府の考え方
高齢者が安心して暮らせる地域づくりについて	地域包括ケア体制の整備を推進することは良いことだと思う。単身高齢者や軽度の支援を必要とする高齢者が増加する中、地域での生活を継続するための日常生活支援は必要なことだと思う。	ご賛同いただきありがとうございます。引き続き地域包括ケア体制を整備してまいります。
「明日の京都」山城地域振興計画全般について	活気のある町を誕生させるためには、 ①市街化区域の見直し、用途地域の見直し ②相楽郡の市町村が自主的にまちづくりの考えを住民と共に絵を描き肉付け作業する ③用途地域などの見直しを含めて地域主体のまちづくりを地域の手に乗せることが一番と思う。	土地利用等は、まちづくりの観点から、まず市町が検討を進めることになっていますが、京都府も一緒に検討してまいります。
観光施策について	観光資源が豊富な山城地域において、観光情報発信が弱い。各市町村が連携しテーマと話題性を組込んだ内容の観光情報発信や、旅行エージェントをはじめマスメディアへの情報発信が必要。 年間5000万人の観光客を迎える京都市観光から「ひと足伸ばし」で山城地域へ誘客することも必要。京都市観光は8割以上がリピーター客で、京都市や大阪と連携した情報発信が必要。	口コミ情報の積極的な活用や、女性・学生等若い世代と連携した情報発信を強化してまいります。
	山城観光の弱点は宿泊施設が少なく、昼の観光が主になってしまうことから、大阪市や京都市に宿泊する観光客が山城地域に、まずは日帰りで楽しめるルート作りが必要ではないか？ また、体験型として農家民泊の仕組みづくりができないか？ 農家民泊のシステムが整うと教育旅行の誘致や外国人観光客の誘致にも繋がり、特に外国人からすれば親しみやすい国民性と治安の良さが魅力の一つ。	日帰り観光、農家民泊については計画に記載しているとおり、積極的に取り組んでまいります。
	JR奈良線の複線化計画が進む中、山城地域をより親しみやすくするために、愛称がつけられないか？ また、KTRの「くろまつ・あかまつ」のような特徴ある内装の観光列車を走らすことが出来ないか？同時に車内でのおもてなしとして駅弁サービス、ご当地品の紹介などができるのではないか？	山城地域のPRをしていくことは非常に重要であると考えており、JR奈良線に関わる提案については、交通事業者との協議の中で、提案してまいります。
観光施策について	山城地域は、地域によって町の様子が極端に異なるので、地域振興は大変だと感じていたが、「地域特性をいかした施策の展開」のページに、3つの地域別に地域特性と現状課題が分析され、具体施策の方向性などが掲載されていて大賛成。全ての地域で特色あるまちづくりが進められ、賑わっていくことを期待している。 また、「やましろ観光」の推進のページにおいて、観光客一人当たり消費額(この目標の達成や底上げが観光振興には必要になると思う)の掲載を検討されてはどうか？	観光客の一人当たり消費額の目標額(1,600円)を設けます。
少子化について	少子化対策の前に、婚活イベント等に役立つ、若者のコミュニケーションスキルの向上のための施策や里親制度などの拡充などが具体的に推進されれば良い。 女性の雇用と子育ての両立(M字カーブ問題)という課題解決の一案として、職場(職域)に託児施設を設置した際の補助制度が創設されれば、中小企業対策と相まって地域の子育てにつながる。	計画に新たに「少子化への戦略的対応」の項を追加し、ご提案いただいた施策を実施してまいります。
育児について	地域の特性をいかしたまちづくりを考えて頂いて素晴らしい。計画を実行して頂けるとありがたい。 育児中の母親という立場から、幼少期から思春期にかけての子供の関わり方など勉強会があればよい。	保護者が地域で気軽に集い、相談できる場、子どもや子育てについて学ぶ場の充実を市町村や、子育て支援団体等と協力して進めてまいります。
少子化、ワークライフバランスについて	少子化・核家族化・近所づき合いの希薄化などが言われているが、私の住んでいる地域では、1世帯当たりの子どもの数が多く、大家族が多いように思う。 安心して子どもを産み、育てていくためには、母親が子どもを産み、その後、仕事に復帰できる環境はとても重要。 保育所の受け入れも大事だが、母親だけが負担やハンディを強いられるのではなく、父親の協力(育児・家事)がもつと得られるとよいのではないかと。社会全体が、もっと父親の育児休業取得など、前向きで動いてほしい。	ご提案の趣旨を計画に盛り込んで事業を実施し、父親にも育児に参加してもらえるよう働きかけます。
児童虐待について	「育児不安の高い保護者への支援や子育てに自信を持ってない保護者への相談事業を…」とあるが、育児不安や自信がないと自覚している母親は、まだ自分と向き合っているのではないかと。 虐待という認識がないまま自分のストレスのはけ口が子どもに向かっているケースも多いかと思う。 親のストレスの発散方法や、とりまく社会環境が変わっていくことで、虐待も減少していくのではないかと。	保護者が地域で気軽に集い、相談できる場、子どもや子育てについて学ぶ場の充実を、市町村や子育て支援団体等と協力して進めてまいります。